

【只見町】

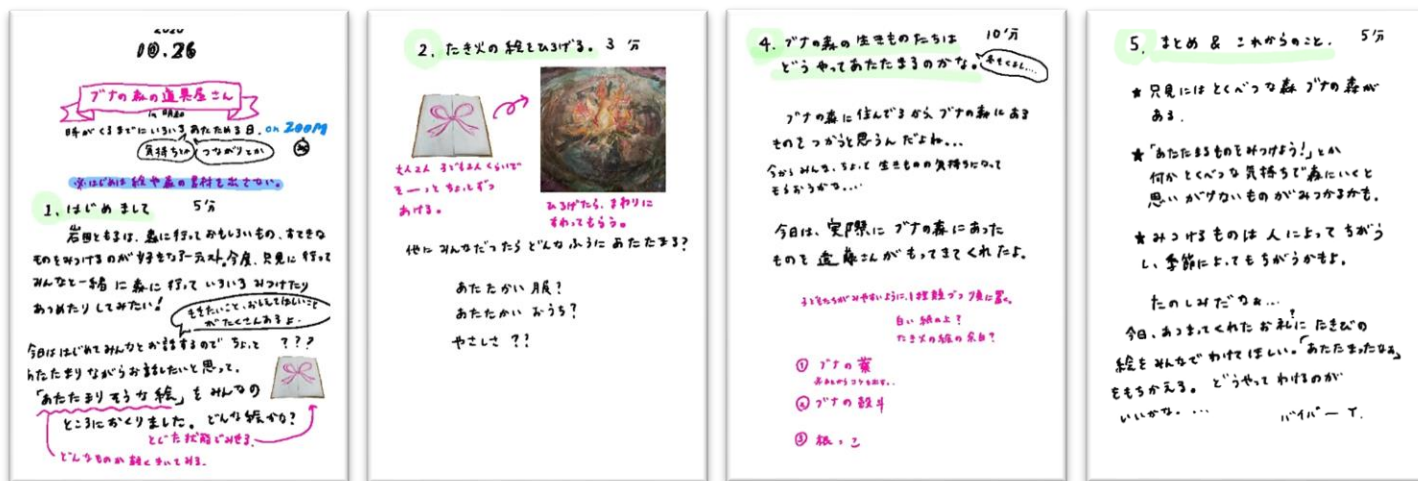
2020年度 ユネスコエコパーク関連事業

2020年度 「只見子ども芸術計画」の活動報告

明和地区放課後子ども教室でプレ活動を実施しました

2018（平成30）年度は只見地区で、2019（令和元）年度は朝日地区で実施してきた「只見子ども芸術計画」ですが、2020（令和2）年度は、明和地区で実施することを予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、これまでと同じような活動は難しいと判断し、今年度は次年度につながるようなプレ活動を1回実施し、本格的な活動は次年度に実施することとしました。

「只見子ども芸術計画」は、只見町の自然や文化に触れ合い、それらを通じた芸術活動（ワークショップ形式）の機会を設けることで、只見町の子どもたちが地域に学び、そして、彼らの未来や才能を拓くことを目指した事業です。今回のプレ活動では、講師とインターネットでつながり、来年度以降の「ブナの森の道具屋さん」につながる活動として、ブナ林にある物やそこにらす生きものを子どもたちにイメージしてもらう活動を行いました。



< 岩田とも子さんからの招待状 >

講師のアーティスト岩田とも子さんには、インターネットを介して登場していただきました。岩田とも子さんからは事前に大きなたき火の絵が送られてきました。子どもたちはこの絵を囲みながら、岩田さんからの問いかけを受けました。



< 岩田さんと顔をあわせる子どもたち >



< たき火の絵を囲みブナ林に思いをはせる >

岩田さん「あたたまる方法にはどんなものがあるかな？」

子どもたち「毛布にくるまる」「コタツに入る」「おしくらまんじゅう」「友達と遊ぶ」「ナベを食べる」「おでんを食べる」「火に入る」

岩田さん「只見にあるとくべつな木ブナのそばでくらす生き物にはどんなものがあるだろう？」

子どもたち「クモ」「ヘビ」「鳥」「バッタ」「アカショウビン」「ゴリラ」「ウグイス」「マムシ」「アリ」「クマ」「アカガエル」「サル」「ダンゴムシ」「シカ」

岩田さん「ブナの森の生きものたちは、ブナの森にあるものでどうやってあたたまるのかな？」

子どもたち

ブナの葉 「イモムシの寝床」「ダンゴムシの布団」「お誕生日のお祝い」

ブナの殻斗 「イタチなど落ち葉の上にかけてたり敷いたり」「クマの食べ物」「イモムシやダンゴムシのマフラー」

木の根っこ 「たき火」「かつら」「帽子」

子どもたちは、アカショウビンやクマ、ダンゴムシといった様々なブナ林の生きものを想像しました。中にはブナの葉を誕生日のお祝いに使う（心をあたためる）というエピソードを発表した子どももありました。

最後に、岩田とも子さんからあつまってくれたお礼に「あたたまった」を持ち帰って欲しいということで、たき火の絵を切り分けてそれぞれ持ち帰ることになりました。



< たき火の絵を切り分けました >

子どもたちにとっては、ブナ林にすむ小さな生きものたちに思いをはせるよい時間となったことと思います。参加してくれた子どもたち、サポートしてくださった放課後子ども教室のスタッフの方々、明和振興センターの職員方、そして岩田とも子さんありがとうございました！

【担当】 只見町役場地域創生課ユネスコエコパーク推進係

TEL 0241-82-5220